『キャンドル革命』
“これが国だ”“これが民主だ”

2016 年 10 月 29 日から 2017 年 5 月 9 日文政権誕生までの“キャンドル革命”を写真と詩と記録でつづった写真・記録集『キャンドル革命』日本語版が 2020 年 1 月に出版されその記念講演会が 2 月 3 日衆議院第二議員会館で開かれました。韓国からはメデイアも参加し韓国へ生中継。

本を出版した社会運動団体「分かつ文化」代表イムソレさんは「今日、日本の国会の中でキャンドル革命の本を前に韓国市民と日本市民とが共に正義と平和を話し合えることがうれしい」「この本は 30 代のキムジェンヒョンさんの写真とキムイエスルさんの報告そしてパクノヘさんの詩で出来ています。歴史を正しく伝えて欲しい」と語りました。

著者キムイエスルさんから熱い思いが語られました。

キムさんは「立春大吉。春の風薫る今日私の話すのは“革命”です」と語り始めました。「革命とは変革を命ずること。最高権力大統領を変えその革命の中で“一人ひとりが変わってきた”」「2016 年の冬から 2017 年の春まで 1700 万人が朴大統領を罷免させキャンドル革命の文政権を誕生させた、平和的に勝利した革命です」と。

キムイエスルさん語る

これが国なのか

李明博・朴クネと 9 年間民衆は暗澹たる思い。自殺を偽装した殺人が行われたり、国民が選んでもいない人が国家権力を握って国を操縦している。セオウル号事件への朴大統領の対応など、“国がまさか”といった状況を目の前にして“これが国なのか?!”とキャンドルの灯をともして声を上げ始めた。

キャンドル革命の主体は一人ひとりの個人の市民なのです。“大統領であれ判事であれ国会議員であれ代理人でしかない。誤れば解雇されるのです”と市民と権力者との関係性が変更させられたキャンドル革命。

スマホで知性と感性の進化した個人市民が、退化した古い政治家に対峙、SNS で変えていった。マスコミ(マスごみ)などすべての多くの情報に対しフエイクのなかからファクトを掴みネットワークを組む。“知民”として聴聞会といった国政の中へ市民の意思をスマホで伝えていく。“蜂起”と“解放”を体験し一人の死者も一人の逮捕者も出さずに成就した平和革命がキャンドル革命なのですと。

それができたのも圧倒的な数の力。100 万人の人々がいっせいに声を上げるその恐怖で権力者が震えあがった。「持てる者は自から引き下がりはしない。権力者は自から退陣しない。民衆蜂起の恐れの下でのみ後退する」「100 万人それ自体が巨大な暴力だからだ!」そして延べ 1700 万人の平和的集会が持つ道徳的威力はその物理的威力をはるかに圧倒したのですと。

第 5 回目の集会の日はソウルの初雪の日、天候が悪いから人が集まらないかも・・・だから自分はひとりでも行ってみようと思った人が傘やカッパを着て子どもをオブって 150 万人の人々が結集した。その人々の熱気で集会周辺の温度が 6 度も上がっていたという。まさに 23 週間つづけたキャンドル革命は一人ひとりによって作られた革命であり、“人々が立ち上がり政治が後に続いてきた”。

又、集会の広場はただ怒りの場所だけでなく個々の人の解放区でもあった。乳母車の子どもから 80～90 歳のお年寄りまで自分たちの声を出す民意の広場!民衆の共和国!生きてる実感を持ち一人ひとりの参加者が主人公で歴史を書き換えている、生きている、自尊心の実感があった。それは写真集の一人

ひとりの顔の表情・目の輝きから見て取れます。

韓国憲法第一条「すべての権力は国民から生ずる」をキャンドル革命で実感できたのです。キャンドル革命の大きな成果は“この実感を持った新しい革命の世代”を克ち取ったことです。キャンドル革命の参加者の20%が10代・20代の若者であり学校・社会の競争・競争の中から、決定権を自から行使し始めたまさに革命を体験した若者が生まれたのが最大の成果であると。(日本の市民運動・社会運動の中でどうしてその闘いの核心を若者に継承しきれていないのか・・どうして?と思ってしまいました)

キャンドル革命が目指している課題について4点ほど指摘。

① **積弊の清算**:1945 年解放後、戦前日本に協力した政権が続いた。大統領一人変えるだけでなく長い歳月蓄積してきた悪の力=積弊を清算するのが革命の目的。審判されてこなかった人々は国民を支配し、NO という人を弾圧してきた。不正に妥協し生き残ることを思ってしまうような社会へ堕落させた積弊(“これが国なのか”)を清算しなければ・・・2019 年の検察改革の要求、2020 年の総選挙で保守層に鉄槌を加えなければ積弊は清算されない。

写真集『キャンドル革命』より

② **日常の積弊を清算する**:自分のそばにある積弊の清算が必要。日常の民主の戦い、自己決定権民主主義を創っていく。その内実は『キャンドル革命』の序朴労解氏の詩に語られている。
“積弊の根は深いというのは何を物語るのか。清算されない積弊の歴史が長く続いて、その何かが私たちの中に根を張り育ってきたのだ。この積弊体制の価値観と生活様式と人間関係が個人の日常の内面にまで入り込み・・・”“積弊も進化する、悪の神秘が作用する。積弊勢力が独占したものを羨望し、嫉妬するとき私の価値観と人間性は姿を変えて内面化され多数決の民主に変質すればその積弊は私をむしばむ”と

③ **経済の民主化**:1997年通貨危機、2008年リーマンショックにより多くの人々は苦しんだ。しかし少数の特権層は富を積んでいった。社会の二極化・格差社会への批判の必要性を指摘。少数の人が世界の富を占有し、今、これを是正すべき政治の無力化、そして人々の不満と怒りの思いが蔓延。その行き着くところは戦争か革命かでしかない。韓国では官僚の「民衆は犬や豚と同じ」の発言、チェスンシルの娘が「お金があるのも実力のうち、恨むなら親を恨め」といった言葉に怒りが・・・キャンドル革命に立ち上がり、これまでは経済成長が重要な価値であったが“経済よりも正義を!”“成長よりも成熟を!”と訴え新たなる経済の民主化を求めたのです。

④ **南北の平和を**:朝鮮半島は冷戦地帯であり分断国家。朝鮮戦争から 70 年たつ 2020 年も休戦・停戦といった戦争の中で生活している。この状況での平和への歩みがキャンドル革命での政権交代によって少し進んだ。朝鮮半島では 1 世紀の間帝国の廃墟の上に生きて苦しんできた。韓国市民と日本の市民とが過去の歴史の清算をして東アジアの平和を構築していきましょうと。

韓国は革命の国

最後に“何故キャンドル革命で100万人の集会、延べ1700万人の人々が参加できたのか?”への問いに対し「韓国は革命の国だから」と答えました。

120 年ほど前の東学農民が“人こそ天である”と闘い、3・1 独立運動、1960 年の闘い、1980 年 5・18 光州での軍部との戦い、1987 年 6 月民主化闘争と分断・独裁の苦しい時代の中市民の粘り強い革命の闘いがあるから、その闘いに誇りを持っている市民がキャンドル革命に立ち上がったと。

“光は闇に負けない　真はうそに負けない　真実は沈まない　決してあきらめはしない”

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫　047-445-9144

＊活動報告ホームページに掲載「いい鎌ケ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。